



天草町大江のかつて潜伏キリシタンであった家に代々受け継がれてきた信仰具として、ヴェロニカのメダイがあります。表面にキリストの顔、裏面には聖母子像が描かれているのが特徴で、国内では5点のみ発見されています。このうち、大江から発見されたもの2点を常時展示しています。

このメダイは、1570年から1580年頃に作られた可能性が高く、天草でキリスト教信仰が始まって間もない時期の信仰具として位置付けられる貴重な資料です。

展示している2点は、丸鏡や古銭など25点とともに「キリシタン禁制の遺物一括」として県の重要文化財に指定されています。



地域の歴史を知る上で欠かせないのが「文化財」。今回は、天草ロザリオ館の収蔵資料を紹介！

天草文化財探訪

圖文化課 ☎3216784



お客さんの笑顔と目標があるから続けられる

南新町の南川プロムナード沿いで毎週日曜日の早朝に開催されている「しろう天草観光朝市」。立ち上げ当時は量販店が少なく、作った農産物などを売ることを自分たちでしようとして、出店者で本渡観光朝市運営協議会を設立し、今年で30年目を迎える。

「観光朝市」という名前だが、お客さんは地元の人が多く、毎回100人以上が訪れる。常連客も多く、「来週はこれをお願い」と予約していく人もいそう。

朝市には、農産物や魚介類、加工品などさまざまな商品が並んでいる。初代会長の植田繁雄さんたちが、朝市に来たら何でもしようするようにと、あちこちに出店をお願いに回り、一番多いときは47店舗が出店していた。しかし、高齢化により現在は15店舗に減少。約半数を占めているのが初回から出店している人たちで、朝市を継続していくためにも出店者の確保が課題となっている。出店しやすくなるよう、売れ残った商品は本渡地域の直売所で販売できるようにしており、悪天候でお客さんが少なくても安心して出店することができる仕組みが作られている。

天草は地元でとれる産品に恵まれていることや、出店者同士が親戚のような関係性と和気あいあいとしていることが、朝市が30年も続いている秘訣だ



そう。だ。「80歳を過ぎても継続して出店できているのは、自分も周りの人も元気であるという証拠。高齢になってからも、毎週朝市に出店して自分が作ったものを売る」という目標があるから楽しい」と話す現会長の森山直樹さん。冬は寒くて「きついな」と思うこともあるが、お客さんが来てくれるので出店する人たちも毎週楽しみにしているという。

年始やお盆の時期はイベントが開催され、隣の緑公園でだこ汁や刺身等が無料であるまわれるなど、いつも以上ににぎわいを見せる。

南川プロムナードは今週末天草の新鮮な食材が並び、朝市の和やかな雰囲気にも包まれている。

キラリ天草人 本渡観光朝市 運営協議会 (南新町)

天草 見どころ図鑑



恐竜のオブジェ (御所浦町)

島内には中世代のジュラ紀から白亜紀に生息していた恐竜のオブジェが点在しています。そのうちの4つは鉄で作られた骨格のオブジェで、訪れた人たちの目を引いています。

★ここに注目

台座のプレートには、モデルになった恐竜が生息していた時代や化石の産出地などが記載されています。